

追悼

砂川 慶介 先生を偲んで

砂川慶介先生は、去る2015年12月31日逝去されました。

故 砂川慶介先生は、その小児科医としてのご経歴のなかで一貫して感染症と化学療法の分野でのお仕事を続けて来られました。先生のご研究の成果により多くの子どもたちの命が救われたことはもちろんのこと、優しく親分肌であったお人柄を慕って、先生のまわりには多くの人材が集まり、私も含めて大勢の小児医療、感染症を学ぶ後輩、そして抗微生物薬を開発する人材をお育てになりました。感染症を専門とする医師や、臨床検査技師、薬剤師、看護師など医師以外の医療職の育成には特にご尽力され、日本感染症学会の専門医制度や日本臨床微生物学会の認定臨床微生物検査技師制度・ICMT制度、ICD制度協議会のICD制度の確立に、砂川先生の果たされた役割は極めて大きかったといえることができます。

砂川先生が日本小児感染症学会にかかわるようになったのは、東京歯科大学市川病院での小児科研修を修了し、当時故 市橋保雄先生が主宰する慶應義塾大学医学部小児科学教室の感染・免疫研究室に戻られてからで、1973年に開催された第5回日本小児感染免疫学研究会総会（慶應義塾大学の先輩でいらっしゃる聖マリアンナ医科大学 水原春郎先生が主催されました）に初めて参加されてからとうかがっております。当時、本学会の前身である日本小児感染免疫学研究会の事務局は慶應義塾大学の小児科に置かれており、砂川先生も市橋先生の部下として同研究会の名簿作成など、事務局業務の一端を担っていらっしゃいました。その後も同研究会の運営委員を務められ、日本小児感染免疫学研究会と日本小児ウイルス研究会が合併してできた本学会においても常に学会の活動に貢献されて、1996年には砂防会館（東京）において第28回日本小児感染症学会総会を主催されました。2008年4月からは、名誉会員として学会運営を大所高所よりご指導いただきましたが、2015年10月に福島市で開催された第47回日本小児感染症学会総会・学術集会（細光亮会長）でランチョンセミナーの座長をされたのが、最後の学会参加となってしまいました。

砂川先生の感染症・化学療法の領域における業績の



故 砂川慶介先生

なかで特筆すべきことは、小児領域における抗感染症薬の開発です。小児領域における抗菌薬・抗真菌薬をはじめとする抗感染症薬の開発は、帝京大学の故藤井良知先生、大阪医科大学の故西村忠史先生、神戸市立中央市民病院の故小林裕先生を中心としたグループが担っていらっしゃいましたが、砂川先生はそのグループのなかで中心的な存在として若手研究者をまとめられ、藤井・西村・小林の各先生方が現役を退かれた後は、わが国の小児領域における抗感染症薬の開発を束ねられてこられました。1970年代以降、国内で開発されたほとんどすべての小児用抗感染症薬の開発を指導し、実践してこられたことは、皆さまよくご存知のことと思います。砂川先生のご指導で開発が進められた薬剤により、多くの小児が感染症の脅威から救われたといえることができます。

また砂川先生は、小児科で感染症診療を志す医師の輪を広げることを目的に、尾内一信先生、堤裕幸先生、中野貴司先生、岡田賢司先生、森内浩幸先生、岩田敏を世話人として、3年を1クールに細菌感染、ウイルス感染、ワクチンをテーマにワークショップ形式で小児感染症について研修する小児感染症専門医育成

フォーラム (PINSTR) を 2008 年に立ち上げ、代表世話人として面倒をみてこられました。このフォーラムには毎回 20~30 人の小児科医が参加し、現在も活動が続いていますが、フォーラムの参加者がお互いに協力し、ネットワークを作って将来の日本小児感染症学会の指導的役割を担っていただきたいということが、砂川先生の大きな願いでございました。

新たな耐性菌の増加にもかかわらず、抗感染症薬の開発が滞りがちになっている昨今、砂川先生を失うことの意味はとて大きいのですが、これまで同じ感染

症学を志してきた後輩の一人として、また抗感染症薬の開発と一緒に携わらせていただいた者の一人として、砂川先生の遺志を継ぎ、これからも感染症学と化学療法学の発展、そしてこれからの小児感染症を担っていく人材の育成に一層の努力を続けていく所存であります。

偉大な先輩に厚くお礼を申しあげるとともに、ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申しあげたいと存じます。

慶應義塾大学医学部感染症学教室

岩田 敏 記

略 歴

【学歴・職歴】

- 1966 年 3 月 慶應義塾大学医学部卒業
- 1966 年 4 月 慶應義塾大学病院でインターン
- 1967 年 4 月 慶應義塾大学医学部小児科学教室入室
- 1968 年 4 月 東京歯科大学市川病院小児科出張
- 1972 年 1 月 慶應義塾大学医学部小児科学教室帰室
- 1979 年 10 月 慶應義塾大学医学部講師 (小児科学)
- 1983 年 2 月 国立東京第二病院小児科
- 1989 年 4 月 国立東京第二病院小児科医長
- 1998 年 10 月 北里大学医学部感染症学教授
- 2002 年 4 月 北里大学大学院感染制御科学府感染症学教授/北里生命科学研究所教授
- 2009 年 10 月 北里大学生命科学研究所特別研究部門教授
- 2012 年 4 月 北里大学感染制御研究機構客員教授

【受賞歴】

- 2005 年 4 月 日本感染症学会 二木賞
- 2008 年 6 月 日本化学療法学会 志賀潔・秦佐八郎賞

【主催された主な学術集会】

- 第 28 回 日本小児感染症学会総会 (砂防会館, 1996 年)
- 第 47 回 日本感染症学会東日本地方会総会 (東京プリンスホテル, 1998 年)
- 第 9 回 尿路感染症研究会 (第一製薬本社講堂, 1998 年)
- 第 78 回 日本感染症学会総会 (東京ドームホテル, 2004 年)
- 第 19 回 日本環境感染学会総会 (パシフィコ横浜, 2004 年)
- 第 8 回 日本臨床腸内微生物学会学術総会 (北里大学薬学部コンベンションホール, 2005 年)

砂川慶介先生は本学会におけるご経歴以外にも、薬事・食品衛生審議会委員ほか厚生労働省、農林水産省、医薬品医療機器総合機構関連の委員を多く歴任されるとともに、学会関連では日本感染症学会理事長、日本臨床微生物学会理事長、日本化学療法学会理事・監事をはじめ多くの学会の役員を務めてこられました。